

平成 29 年 12 月 29 日

# 南の風 2017 ウィンターカップ 特集号

南部ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

ウィンターカップの特集号です。女子決勝は安城学園（愛知）VS大阪桐蔭（大阪）の激突でした。

いやはやすごいゲームになりました。ダブルオーバータイムとなり、『勝利の女神』はどっちに微笑むのか相当迷ったようでした。私は東京体育館のアリーナ席（オフィシャル席の裏）で観戦していましたが、4Q終わり頃から、どちらかが点数を決めると「これで決まりかな」と思ったことが何回あったのでしょうか。そのたびに決められたチームが再び盛り返すのです。オーバータイムに入ってから、両チームとも、離されそうになると大事なところでカットインや3Pで追いついたり、逆転したりするのです。『絶対負けない!』という両チームの意地と意地が激しくぶつかりあった』ということも当然あったのでしょうが、私は特に4Qの後半からオーバータイムの時間帯は、時間がストップして静寂の空間で両チームが戦い、点が入るたびに観客の大歓声だけが聞こえてくるといった感じがしました。

その時、頭をよぎったのは今年のインターハイ（高校総体）の男子準決勝、福岡大学附属大濠高校（福岡）対帝京長岡（新潟）の一戦です。何と何と、4度のオーバータイムの大激戦の末、89対87で福岡大学附属大濠高校が勝ったゲームです。

そのゲームに勝るとも劣らない大阪桐蔭と安城学園との決勝戦でした。おそらく決勝戦でのダブルオーバータイムでの決着は史上初だと思います。『感動』を乗り越えて『神様のいたずら』のようでした。

勝ち上がりを確認します。優勝候補筆頭の岐阜女子は、準々決勝で安城学園に79対105で敗れ、もう一方の優勝候補の桜花学園も、準決勝で大阪桐蔭に54対79で敗れ姿を消してしまいました。安城学園は、準決勝で八雲学園に90対85で勝利し決勝に駒を進めました。

それではゲームの流れを追いながら書きます。

1Qの入りは安城学園が大阪桐蔭のゾーンを攻めめぐねます。3分半にわたってノーゴールでした。大阪桐蔭のゾーンは3-2 からチェンジングする1-3-1に見えました。ボールへのプレッシャーがきつく、遅いパスがコーナーやサイドラインに行くと必ずダブルチームを仕掛けます。安城学園はタフショットを余儀なくされてオフェンスが機能しません。4分過ぎにようやく8番千葉の3Pが決まりました。一方大阪桐蔭は、6番鈴木が3Pが3本、15番竹原のポストショットなどで加点します。その後やや持ち直した安城学園は、8番千葉の2本目の3Pや10番深津のフリースローなどでつなぎます。1Q終了時、16対12で大阪桐蔭がリード。

2Qでも大阪桐蔭はゾーンディフェンスを続けます。オフェンスでは、ドリブルカットインや15番竹原の3Pなどで加点します。安城学園は8番鈴木が3Pをきっかけに、ゾーンを揺さぶり7番相澤、13番野口、10番深津の2Pで差を詰めます。さらに4番上村のショットで1点差とし、13番野口の2Pジャンプショットで逆転します。大阪桐蔭はフリースローが決まらず、さらにファウルトラブルに巻き込まれ点数が伸びなくなります。安城学園の8番千葉の3P（このゲーム4本目）が入ったところ（29対38安城学園リード）大阪桐蔭がタイムアウト。その後両チームとも得点が入らず、29対38安城学園リードで前半終了となります。安城学園はゾーンに慣れシュートの精度が上がりました。大阪桐蔭はミスからターンオーバーがかさみ、リズムが崩れました。 次号に続きます。